



1941（昭和^{しょうわ}16）年から1945（昭和20）年までおこなわれたアジア・太平洋戦争と調布について、小・中学生のしらべものにつかえる本を紹介^{しょうかい}します。

このリストのみかた

タイトルです。

本についているラベルの番号です。

・『図説 調布の歴史』調布市市史編集委員会編 調布市 2000 (213 ㊦) ●
p.202-203「戦争と銃後の生活」、p.204-205「調布飛行場と空襲」、p.206-207
「戦時下の教育」が載っています。千人針や通知文書などの写真や、当時の写真も載っています。

本の^{ないよう}内容の説明です。
波線のついてる言葉は、
最後に説明があります。

●…中央図書館4階子ども室地域資料コーナーにあります。

○…中央図書館5階地域資料コーナーにあります。

分館でさがすときには、カウンターで聞いてください。

🔍 歴史を知る

・『解説シート No.1~38』 調布市郷土博物館 1988 (T 01 210.1-カ) ○

郷土博物館が作った、テーマごとに調布の歴史を解説する資料^{しりょう}です。No. 35「国防婦人会・愛国婦人会」、No. 37「昭和20年頃の調布市域1」（おもに空襲^{くうしゅう}について）、No. 38「昭和20年頃の調布市域2」（おもに軍事施設・軍需工場^{ぐんじゅうこうじょう}について）に戦時中のことがのっています。

・『子どものための調布市の歴史 第2版』

調布市立図書館 2001 (213 ㊦) ●

p. 46-49「戦争と調布飛行場^{ひこうじょう}」に、調布飛行場のことが書かれています。p. 50「調布の空襲」に、空襲^{くうしゅう}があった場所がわかる調布の地図があります。

・『図説 調布の歴史』調布市市史編集委員会編 調布市 2000 (213 ㊦) ●

p. 202-203「戦争と銃後の生活」、p. 204-205「調布飛行場と空襲」、p. 206-207「戦時下の教育」がのっています。千人針や通知文書などの写真や、当時の調布の写真ものっています。

・『青南国民学校の神代村疎開一僕らの疎開は京王線に乗ってー』古橋研一著

調布市郷土博物館編集 調布市郷土博物館 2004 (T 01 372.1-㊦) ○

赤坂区（今の港区の一部）の青南国民学校が、神代村（今の調布市）へ集団疎開したときのことを書いた本です。最後に年表と参考文献があります。

・『僕の調布にも空襲があった』

古橋研一著 みんなしんぶん社 1986 (210 ㊦) ●

調布の空襲についてのほか、アジア・太平洋戦争全体のことについてもまとめられています。最後に年表と参考文献・資料一覧があります。『僕の調布にも空襲があった 続』という続編もあります。

🔍 写真で見る

・『調布今昔写真集』調布市教育委員会 1974 (T 01 748-㊦) ○

p. 96-103「戦時下の調布」に当時の写真がのっています。

・『ふるさと調布一保存版ー』

小野崎満監修 山岡博監修 郷土出版社 2015 (213 ㊦) ●

p. 108-111「戦時中」に当時の写真がのっています。また p. 47-48 に、戦後調布飛行場用地の一面につくられた水耕農場などの写真がのっています。

・『目で見ると調布・狛江の 100 年』

田村勝正監修 郷土出版社 2003 (213 ㊦) ●

p. 73-77「日中戦争から太平洋戦争へ」、p. 78-81「戦時下の学舎」、p. 82-88「銃後の暮らし」に当時の写真がのっています。

🔍 調布の人の戦争体験談を読む

・『いまも心に一記録集 戦争体験を次の世代へー第2版』

調布市 2010 (916 ㊦) ●

調布の人たちの戦争体験を集めた本です。調布市域の空襲のこと、年表、用語解説、「戦時中の調布を知るための参考文献」が最後についています。

- ・『心に秘めていた戦争の話ー戦後 50 年あのこと子どもたちは…ー』

調布市戦時記録保存会編 偕成社 1995 (916 ㊦) ●

調布国民学校（今の第一小学校）に通っていた人たちが、自分の体験を書いています。

- ・『子どもたちに伝えたい戦中、戦後の暮らし』

調布自分史の会 2012 (T 01 916-ㄱ) ○

「調布自分史の会」の人たちが、子どもたちにむけて戦中・戦後の自分の体験を書いています。

- ・『太平洋戦争と調布』 太平洋戦争と調布編集委員会編集

調布史談会 2004 (T 01 210.7-ㄲ) ●

戦時中の暮らし、学校などのテーマにわけて、調布の人たちが体験した話のっています。調べ物にオススメです。

- ・『私の戦争体験ー総集編ー1991～1995』

調布市西部公民館 1995 (T 01 916-ㄴ) ○

調布に住む人たちが、自分の戦争体験を書いています。

🔍 今も残る戦争の跡

- ・『掩体壕ー都立武蔵野の森公園ー』 東京都公園協会武蔵野の森公園サービスセンター 2015 (T 01 210.7-ㄷ) ○

武蔵野の森公園に残る掩体壕の写真や掩体壕の作り方、調布飛行場の年表、「調布飛行場の戦争遺跡」の地図がのっています。

- ・『65 年目の記憶 多摩地域の戦争遺跡ー増田康雄作品集ー』

増田康雄 2011 (T 03 210.7-ㄹ) ○

武蔵野の森公園に残る掩体壕や、戦時中に国領に落ちたアメリカ軍の爆撃機B-29 に積みこまれていた酸素ボンベなどの写真がのっています。

💡 調布と戦争キーワード

掩体壕（えんたいごう）

戦闘機^{せんとうき}を敵^{てき}の攻撃^{こうげき}から守^{まも}るための施設^{しせつ}で、『掩体壕一都立武蔵野の森公園一』や『郷土博物館だより』No. 64（中央図書館5階でファイルしています）にくわしい説明^{せつめい}がのっています。武蔵野の森公園では、今も残る掩体壕を見学することができます。

空襲（くうしゅう）

飛行機（爆撃機や戦闘機など）で空中から地上を攻撃するのが空襲です。戦時中、調布でも空襲がありました。『図説 調布の歴史』などに、調布市内で空襲があった日付^{ひづけ}や場所^{ひょう}がわかる地図と表^{ひょう}がのっています。

水耕農場（すいこうのうじょう）

土をつかわず、化学肥料^{かがくひりょう}を使った養液^{ようえき}で野菜^{さいばい}を水耕栽培^{のうじょう}する農場^{せんご}です。戦後、日本の占領政策^{せんりょうせいさく}をおこなった連合軍最高司令官総司令部^{れんごうこくぐんさいこうしれいかんそうしれいぶ}（GHQ）の指示で、調布飛行場用地の一面に作られ、調布やその近隣^{きんりん}に住む多くの人が働^{はたら}いていました。『図説 調布の歴史』や『ふるさと調布一保存版一』に、水耕農場の写真がのっています。

疎開（そかい）

戦争などの被害^{ひがい}をさけるため、人や物を都会^{とかい}からほかの所^{ところ}にうつすことです。

調布飛行場（ちょうふひこうじょう）

1941（昭和 16）年に作られた飛行場で、戦時中は、東京を守るための陸軍^{りくぐん}の基地となっていました。戦後、調布飛行場用地の一面には水耕農場が、さらにその跡地^{あとち}に「関東村^{かんとうむら}」と呼ばれるアメリカ軍^よの住宅^{じゅうたく}などが作られました。

